



Dobrodošli v Okayami!

ドスロドシュリ ウ オカヤマ



ようこそ、おかやまへ!



2015年8月8日～10日

ボーイスカウト都窪第2団 **ワクワク通信** 増刊号

スロヴェニアスカウト・ホームステイの記録

第23回世界スカウトジャンボリーが山口県で開催され、会期後の8月8日から10日まで、岡山連盟ではスロヴェニアから70名、イギリスから41名、合計111名のスカウト、指導者をホームステイとして受け入れました。

都窪第2団では12のご家庭が受け入れに協力され、24名のスロヴェニアスカウトが、それぞれの家庭で、回転寿司やカラオケ、お祭りなど、多彩な日本文化を体験しました。

また受け入れたご家庭の子どもたちも、一生に二度と無いであろう体験に、心躍らせたようです。それぞれの感動をどうぞみなさまも誌面で体験してください。



スロヴェニア共和国
首都：リュブリャナ
通貨：ユーロ
人口：206万(2013年)
公用語：スロヴェニア語



川原家



- 川原峻太(ボーイ)、大輝(カブ)
- イボ(Ivo Pajer 16歳男子)
- ギャスパ(Gasper Tratnik 15歳男子)

●TVゲーム(太鼓の達人、スマッシュブラザーズ)、空手道場での稽古参加(組手もしました)、回転寿司(イクラも生魚も食べました)、ラウンドワン(レースゲームにはまる、バッティングマシン、ピッチングマシン、卓球、ビリヤード等々)、手持ち花火、美観地区散策

我が家に来たスカウトに関して、

- 1)とにかく何でもチャレンジをするという精神。→例えば、寿司に關しても、何でも食べてみる、提案した食べ物もまずは食べてみる・・・ただし、大浴場だけはNGでした。
- 2)嫌がらない。→疲れているだろうけど、「～に行こう」と言うとも必ずOKの返事で、アクションが機敏だったことが印象的でした。
- 3)精神年齢が日本人の同年齢より大人びている印象。→スロヴェニアの国の説明や、将来の就きたい仕事、家族の事等々、とても理路整然と説明してくれました。日本人で言えば、大学生ぐらいの感覚です。故に、子供同士はやや壁があるように思え、密にコミュニケーションが取れなかったのが残念でした。
- 4)総括→いずれにしても、今回のホームステイは、我々保護者にとっても大変良い経験と、学び、気づきがありました。今後の子供へのグローバル教育、自国へのロイヤリティの持ち方、コミュニケーションの取り方(英会話)の指針となりました。子供達も全く異国の方々との交流により、大きな刺激を受けたと同時に、自身も世界ジャンボリーと、ホームステイ参加を強く意識し、何をすべきかをおぼろげに感じ取った様子です。

尾崎家



- 尾崎 天志郎(ベンチャー)
- エヴァ(Eva Orsic 17歳女子)
- サラ(Sara Rovar 14歳女子)

●ショッピング・川釣り・タイルワークショップ・はかま着付け・ゼンガ・ももちやりで街中サイクリング・おいしいパン屋で朝食・麵つくりの見えるうどん(外食)・ワールドビュッフェ・和中華(外食)・カフェでパフェ・2日目ピーバースカウトの活動に参加してもらい世界ジャンボリーのお話とゲームをしてくれました。最終日、滞在中の写真DVDに焼いてプレゼントしました。

二人ともとても素直な仲のいいスカウトでした。わからないことは、年長のEvaがSaraにスロヴェニア語で説明をよくしてあげて安心してもらうようにした。旅行も経験豊富なようで、ほぼお互い英語で対話し、家族の話や住んでいる付近の話をして写真の見せあいもしました。

2日目のピーバースカウトの活動にも積極的に参加してくれてありがたかったです。ピーバー達の目をしっかり見て、話をしてくれました。3日目の朝、短時間ですが近所の川で釣りをしました。たくさん釣れたので大変喜んでいました。

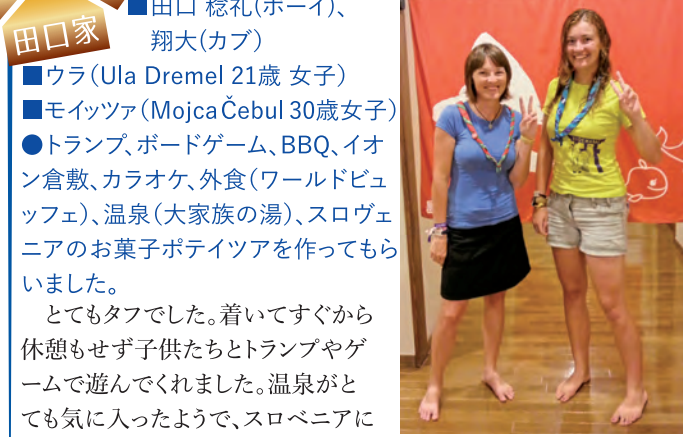
英語を勉強していればもっとコミュニケーションができたと思います。家族の意識も変えてくれるとても貴重な経験ができました。これも関係者の皆さんの奉仕のおかげです。ありがとうございました。

大森家



- 大森 陸(カブ)
 - ウルシャ(Ursa Pelikon 14歳女子)
 - スペラ(Spela Adamic 16歳女子)
 - かるた、折り紙、ゼンガ、花火、ボーリング、手巻き寿司、蕎麦屋、バイク(特にチョコレートの様な甘い物に目が無いように、西瓜・桃も大好きな様です(^o^))
- 我が家に来られたスカウトは、16歳と15歳で英語が思うように通じず四苦八苦。(～。?)でも、家での折り紙やボーリングを行い二国間のコミュニケーションを楽しみました!短い期間でしたが、有意義な時間をすごせて一生の思い出になったと実感しています。

田口家



- 田口 稔礼(ボーイ)、翔大(カブ)
- ウラ(Ula Dremel 21歳 女子)
- モイツァ(Mojca Čebul 30歳女子)
- トランプ、ボードゲーム、BBQ、イオン倉敷、カラオケ、外食(ワールドビュッフェ)、温泉(大家族の湯)、スロヴェニアのお菓子ポテイツァを作ってもらいました。

とてもタフでした。着いてすぐから休憩もせず子供たちとトランプやゲームで遊んでくれました。温泉がとても気に入ったようで、スロヴェニアにも作りた!絶対みんな喜ぶわ!と言っていました。子供たちは、初めはホームステイに乗り気ではありませんでしたが、二人が帰ってからは、「ホームステイも結構いいもんだね。もう1日あったらよかったのに・・・。世界ジャンボリーには特に興味がなかったけど、行ってみたくなった!」と言っていました。子供たちは積極的にコミュニケーションをとっていたわけではありませんが、すごく良い経験になったんだなあ実感しました。

須佐美家



- 須佐美 光平(ベンチャー)、圭史(ボーイ)
- ティミー(Timotej Grobovsek 17歳男子)
- マテーイ(Matej Plecnik 15歳男子)
- 久米のお祭りで金魚すくい、盆踊り、綿菓子、かき氷。イオン岡山で散策、家でのお好み焼は作る過程を楽しんでもらえた?花火を楽しみましたが、スロベニアでも手花火があるそうです。

とても礼儀正しく好印象でした。食事では箸の使い方が非常に上手でした。少し練習をしてきたと言っていたのですが、味噌汁の豆腐を上手に摘み上げていたのはびっくりしました。帰った後、部屋を見るときちんと布団をたたんでくれていました。

子供たちは緊張してなかなか話せませんでしたが、2日目の夕刻から少し慣れてきました。普段経験できないことで大変な部分もありましたが、子供も親もよい経験をしたなと思っております。

坂井家

- 坂井 駿介(カブ)
- ガーヤ(Gaja Potocar 14歳女子)
- ブリーナ(Brina Lencl 14歳女子)
- けん玉披露、夕食(手巻き寿司)、花火、ラウンドワンでボーリング、プリクラ、太鼓の達人など、イオン岡山で昼食(天ざるそば)、ウノやジェンガなどのゲームや歌など、吉備小学校&学童保育見学

スロベニアスカウトの二人には、我々の拙い英語も一生懸命理解してくれようとする姿勢がみられ、コミュニケーション能力の高さを感じました。8歳の息子は終始一歩引いた感じでしたが、一言、英単語を話したことが彼女たちに伝わったのがうれしかったようです。彼女達が帰った後も、家庭内ではちょっとした英語が自然に飛び交うようになりました。また、控えめな息子が「英会話を習うのは嫌じゃないよ」と言い始めたことは大きな収穫だったと思います。

食事について、1名はベジタリアンだったため魚介類にするなど配慮が必要でした。どの食事でも喜んでもらえたようです。特に人気だったのは、鳥のから揚げ、天ぷら、だしまき玉子でした。刺身や梅干しやお好み焼きなどの気が進まないものも、NOではなく、恐る恐る食べてみると意外と美味しいというリアクションでした。「日本食が好きになった」と言ってくれたので、彼女たちにとっても良い経験ができたのではないかと思います。

彼女たちはインターネットでスロベニアのことを紹介してくれまし



た。地図で場所や自然豊かな美しい風景や動植物、街の雰囲気などを画像で見せてくれたり、文化のことなどを話してくれました。日本は夜なのにスロベニアは朝だということ、スロベニアから日本までは飛行機で16時間くらいかかること、スロベニアまで車ではいけないことなど、うちの子供たちにとっては驚きの連続だったようです。初めて世界を感じる事ができた瞬間だったのではないのでしょうか。

また、彼女たちはジャンボリーについて「こんなに良い経験は他ではできない、この経験は一生の宝物だ」と興奮気味に話してくれました。8歳の息子に対して「8年後のポーランド大会では私たちがスタッフとして参加するので待ってるよ」とジャンボリーへの参加を勧めました。息子は少し興味を持ったようで、どうなるかわかりませんが、8年後が楽しみです。

武田家



- 武田 和真(ボーイ)、一紗(カブ)
- ラリサ(Larisa Lesjak 14歳女子)
- ヤーニャ(Janja Terzan 15歳女子)
- 庭で近所の人と一緒にバーベキュー、家で英語かるた、トランプ、家カラオケ、ボーリング、パスタ屋でランチ、イオン岡山買い物、ゲームセンター(釣り・エアホッケー等)

我が家に来てくれたお二人は、日本の味をどれも美味しいと言ってくれ、もてなす側としてはこんなに嬉しいことはありませんでした。

子どもたちの交流では、つたない英語も理解してくれ一緒に遊んでくれました。この経験がよい刺激になったと思います。特に英語の必要性は、私も痛感していて今後英語の勉強をするきっかけになると思いました。

二人はいつもまっすぐに目を見て、わかりやすい英語を使って話してくれました。到着してすぐの洗濯とシャワーを勧めた時の喜んだ顔がとてもかわいらしかったです。

松岡家



- 松岡 勇和、咲樹(ボーイ)
- アナ(Ana Gosnjak 17歳女子)
- アーニャ(Anja Carl 16歳女子)

●町内(久米)のお祭り見物・イオン倉敷でショッピング・外食(回転すし)・カラオケ・トイザラスでお土産購入(ぬいぐるみ)・スーパーで夕食の食材購入・近所の散歩・プリクラ撮影・家でTVゲーム
初めてのホストファミリーで緊張しましたが、初対面での明るい笑顔、礼儀正しさに安心。「洗濯物はありますか?」の問いに二人声を揃えて「イエス!」と答えた時は、やっぱり女の子だと感じました。洗濯、シャワー後はやっと落ち着いてリラックスしていました。

我が家は長男が世界ジャンボリー参加なので不在、長女(小6ボーイ隊)は緊張していましたが、綺麗なお姉さんが二人できたみたいで嬉しそうでした。ただ言葉の壁はやはり厚く、それでも片言の英語と身振り手振りで、お互い理解出来た時は嬉しかったです。

感心したのは、外出時に服装はTシャツ、ホットパンツ、サンダルとラフな格好なのに必ずチーフは着用していたことです。ホームステイ中もスカウト活動中という誇りがあるように感じました。

町内のお祭りでは、地域の方の好意で盆踊りの輪に参加したり、やぐらに上がったりと太鼓を叩いたり楽しそうでした。あつという間の三日間でしたが、貴重な体験でした。息子も娘も今回ホストファミリーになった事で世界を身近に感じたようです。今後、英語を勉強して、またホストファミリーになりたいと言っております。

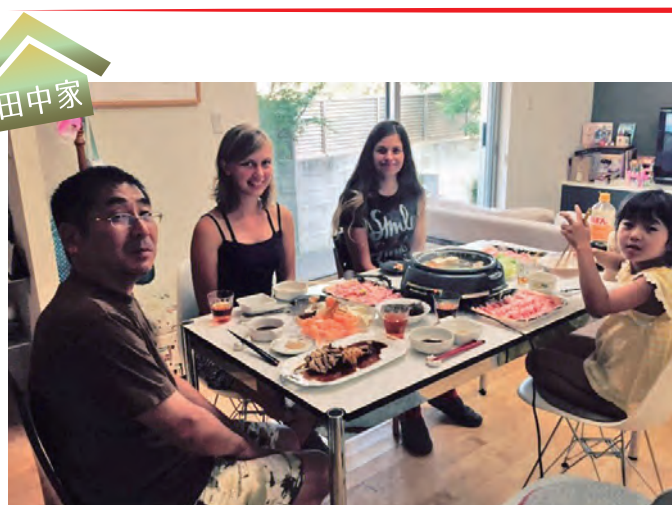
中山家

- 中山 紘介(ボーイ)、佳久(カブ)
- オスカー(Oskar Kandare 15歳男子)
- アーバン(Urban Znidarsic 17歳男子)
- 将棋、花札、トランプ、UNO、折り紙、建部の花火大会、家で花火、水鉄砲、中学校の部活見学(卓球部)、ボーリング、岡山イオンで買い物、外食(回転寿司)、友だちの家で焼き肉

二人とも行儀良くあいさつもはっきりできていました。箸も上手に使って、残さずなんでも食べていました。年上のアーバンの方がオスカーを指導する様子も見られました。部屋もきれいに使ってくれていました。私たちが英語が話せないのも、もっとコミュニケーションを取りたかったのが残念です。それにもかかわらず、二人は常に笑顔で接してくれました。うちの子どもたちは消極的でしたが、一緒に遊んでくれました。とても良い子たちでした。



田中家



- 田中 理咲子(ビーバー)
- マヤ(Maja Vrecar 15歳女子)
- フロリ(Flori Kermauner 17歳女子)
- 夕食しゃぶしゃぶ、焼き鳥、後樂園(プロジェクションマッピング)、かっぱ寿司、はかま体験、花火、アニメショップ

二人とも礼儀正しくて気のつかい方など日本人の感覚に似ていると思いました。マヤちゃんはアニメが大好きで7歳の娘とポケモンの話で盛り上がっていました。スロヴェニアではポケモンキャラクターの呼び名が違うそうです。焼き鳥のソースと桃が気に入ったと言っていました。

フロリちゃんは、趣味が読書の静かな女の子で、箸の使い方がとても上手でした。線香花火がキレイだと喜んでくれました。備前の刀剣博物館で甲冑を着たことが楽しかったそうです。名前入りの箸のプレゼントを渡すと、二人とも歓声を上げて喜んでくれました。

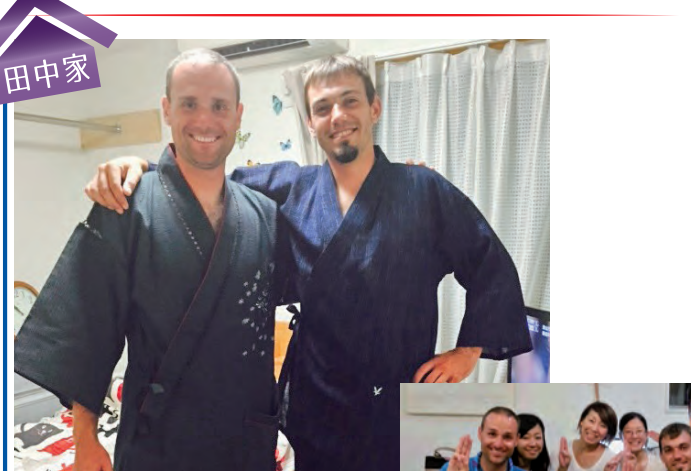
高木家

- 高木 恒成(カブ)
- ネジャ(Neza Kocnik 14歳女子)
- エヴァ(Eva Zukovec 15歳女子)
- 一緒にお好み焼き、やしそばを作る。花火をする。スーパー、100均、岡山イオンでの買い物。電車に乗る。

最初子供達もスロヴェニアスカウトに緊張していましたが、食事や買い物などを一緒にする事でだんだん打ち解けてきました。ただ年上のお姉ちゃんという事もあり、親が簡単なスロヴェニア語と英語を教えてあげないと、なかなか自分から話しかけられませんでした。そういった意味では、同性のほうがよかったのかなと少し思いましたが、それでも最後の方には笑顔で少しですが会話ができていました。子供達にとって本当に貴重な体験となりました。



田中家



- 田中 星也、日向乃(ボーイ)
- ユレ(Jure Vrenko 29歳 男子)
- アンドレ(Andrej Smit 28歳 男子)
- カラオケ、ショッピング、居酒屋

食事はシチューをととても喜びました。ネギを入れて食べていました。カラオケにずっと行きたかったようで、2回も行っていて喜んでいました。大人(指導者)だったのでお酒も一緒に楽しみました。ヨーロッパ人らしく、ゆったりとした休暇の過ごし方などを教えてくれ、働き過ぎの日本人とは対照的でした。日本はとてもいい国だったと、家族と友人に伝えまうと言われたことがとても嬉しかったです。

